

NPO 自然博ネットの 20 年間の活動を振り返って

柴 正博

来年、2022年1月で、当非営利法人（NPO）静岡県自然史博物館ネットワーク（略称：自然博ネット）は、設立から20年を迎えます。当自然博ネットは、2002年（平成14年）9月29日に静岡大学理学部教授だった池谷仙之氏を理事長として設立総会を行い、2003年1月29日に正式にNPO法人として認可されました。当NPOのもととなった静岡県立自然史博物館推進協議会（略称：自然博推進協）が結成から、自然博ネットの設立、そして2015年までのNPO自然博ネットの活動について「自然史しずおか」の第50号（2015年9月号）で、「静岡県に県立自然史博物館を！の活動を振り返って」として、詳しく述べています。ここでは、これらも含めて自然博推進協からNPO自然史博ネットの活動を簡単に振り返り、現在の当NPOの活動を紹介したいと思います。

自然博推進協の発足とその活動

今から27年前の1994年（平成6年）12月3日の静岡新聞の投稿欄に、静岡大学を退官された伊藤二郎氏が投稿された「静岡県に県立自然史博物館が必要である！」という文章が掲載されました。当時各地に県立の自然史博物館が建設されたのに感化されて、静岡県にも県立自然史博物館を早期設置すべき、と訴えました。

この投稿記事を見た日本野鳥の会静岡支部や静岡県地学会、静岡昆虫同好会など静岡県の自然研究グループの方々が伊藤氏のところに集まり、1995年2月に設立発起人会結成のための第1回会合が行われ、5月に「県立自然系博物館設立の要望書」を知事に提出しました。

翌1996年1月に正式に自然博推進協が結成され、4月に「静岡県立自然系博物館の整備の要望書（その2）」を知事に提出し、5月には第1回の自然博推進協の総会が開催されました。

自然博推進協では、県企画部を何度となく

訪れ、担当部課長との懇談を行い、いくつかの要望を伝えましたが、1997年以降標本評価調査が行われた以外、県による自然系博物館の整備に向けた活動はほとんどありませんでした。自然博推進協は、この間ただ要望書を作成していたわけではなく、会員相互の自然史博物館に対する共通認識を高めるために、討論会や各地の博物館の視察会などを行いました。また、1999年には静岡市内のビルのフロアを借りて「ミニ博物館『静岡県の自然』』という展覧会を開催し、2001年4月に「しずおか自然図鑑」を静岡新聞社から発行しました。

静岡県自然史博物館ネットワークの設立と活動

県は、2001-2002年度にかけて「自然学習・研究機能検討会」という自然系博物館の設立に関する検討会を設け、推進協会員も参加したその検討会の報告書に自然学習・研究の拠点施設の必要性和そのあり方、自然系博物館の整備計画について詳細に検討されました。その中に緊急事業として、散逸が危惧される標本・資料の収集・整理があげられていました。これについては、2003年度から県企画部により、「自然学習資料保存事業」として、仮収蔵施設への標本の収蔵と整理・登録が実際に行われることになり、推進協では組織を発展的に解消し、2004年9月に新たにNPOとして自然博物館ネットワークを設立しました。

自然博ネットは、これまでの自然博推進協の活動をより積極的に行うとともに、この「自然学習資料保存事業」を県から受託して、2003年度から仮収蔵施設となった静岡県教育委員会三島分室で事業を開始しました。

自然学習資料保存事業は、2005年度から静岡市清水区の志太榛原健康福祉センター庵原支所（旧清水保健所）に移転して継続され、2008年度からその施設は「静岡県自然学習資料センター」となりました。

自然博ネットでは、県から受託した資料保

存事業以外に、現在も続けていますが、自然博ネット独自で自然観察会や施設見学、講演会を行い、2011年度から静岡県自然史研究の資料や論文を集めた「東海自然誌」という研究報告を発行しました。

2014年度の静岡県予算には、静岡南高校の校舎を「自然史資料を活用した活動拠点」とするための移転改修設計費が計上されて、2013年度に改修工事を行い、2014年度にそれが開設することになりました。県では、企画広報課政策企画局企画課が中心となり、2013年2月に「静岡県自然学習センター整備委員会」が発足し、館内配置の検討と、展示室や収蔵室の具体的な整備計画を策定しました。

つづく2013年度には、静岡南高等学校の校舎の改修工事費と博物館整備費が計上され、7月には「ふじのくに自然系博物館基本構想委員会」が開催されました。この構想委員会は、県の参与で当時東北大学教授の安田喜憲氏が委員長で、自然博ネット理事長の天岸祥光氏を副委員長として進められ、「ふじのくに地球環境史ミュージアム（仮称）基本構想（案）」が策定されました。

2014年1月には、環境史と地質・岩石・地震、生命・昆虫の3分野3名の研究職の公募を開始し、そのうち2名が6月に採用され、ミュージアム整備課に配属されました。構想委員会では、この基本構想案を3月に知事に提出し、県では並行して行っていた博物館の展示基本計画を3月までに策定しました。

2014年の夏には自然史資料を清水の資料センターから旧静岡南高校の新たに整備された収蔵室に移転し、2015年の4月に県にミュージアムの組織が開設され、ミュージアム施設の本格的改修工事が始まり、2016年3月26日にミュージアムが開館しました。

ミュージアムとの連携した活動

自然博ネットは、ミュージアムの開館当初から、このミュージアムの活動の片翼を担うという構想案に則り、協力者としてミュージアムの中に事務所を移し、主に標本登録保管事業と資料活用事業を委託して業務を進めています。

ミュージアムの開館後、自然博ネットは、それまでの「静岡県に県立自然史博物館を！」というスローガンを「魅力的な自然史博物館



植物標本整理作業



ミドルヤードでの昆虫標本整理

活動を目指して！」に変えて、ミュージアムの運営や活動に積極的に協力しながら活動をつづけています。

ミュージアムは開館して、すでに5年が経過しましたが、設備やスタッフ、研究活動、展示・教育などに、私たちの思い描いていた博物館とは少し異なるところもあります。しかし、これまで標本登録保管事業と資料活用事業にかかわりながら、魅力的なミュージアムづくりをNPOとしてまた会員個人としても目指しています。

ミュージアムの活動は「まだ始まったばかり」とも言えますし、「もう5年が経過した」とも言えます。これまでのいろいろな問題を協力して解決しながら、次の段階に進めないかと模索もあります。今後も県のミュージアムのスタッフといっしょに、いろいろと考え協議して、ミュージアムを発展させていきたいと思ひます。

「100年後の静岡が豊かであるために」というテーマをもった博物館の100年後の基礎づくりのために、今後もみなさんの活動へのご支援とご協力をお願いいたします。